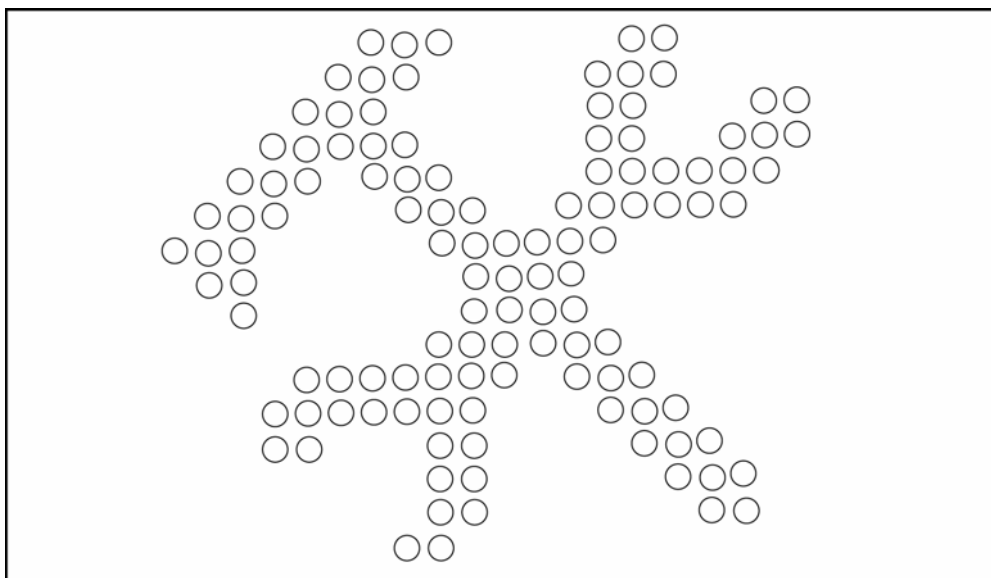


# トレッドミル サービスマニュアル



## サービスマニュアルについて

このサービスマニュアルはトレッドミルを永くご使用していただくためのメンテナンスが記載されております。トレッドミルは通常の電化製品とは異なり、人の体重の衝撃が連続して掛かりながらも走行ベルトを回すという耐久性がとても重要となりますので、必ずメンテナンスが必要です。このサービスマニュアルをよくお読みの上、日ごろのメンテナンスをしていただき安全に永くご使用していただきますよう宜しくお願いいたします。

(株)中旺ヘルス

## 走行ベルトの調整方法

### はじめに

走行ベルトは人の体重がかかりながらも回る最も重要な部分です。  
ベルトが滑りやすいように日ごろのメンテナンスが必ず必要となります。  
購入時は走行ベルトが固いため、早ければ約1週間ぐらいで調整が必要となる場合もございます。

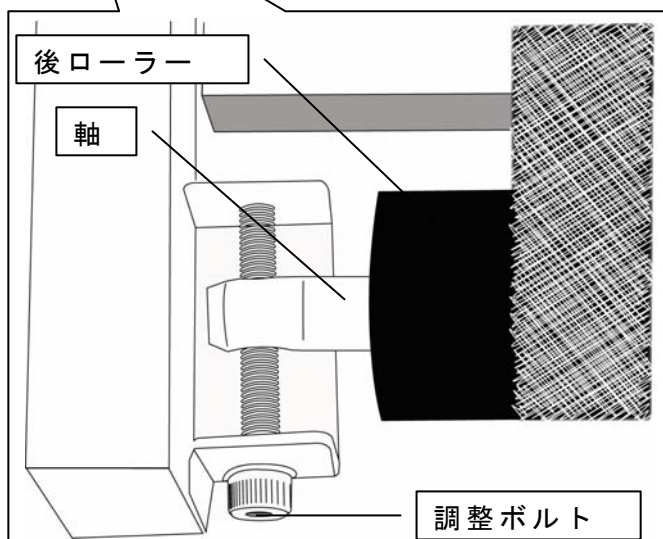
### ベルト調整が必要となる症状

1. 走行ベルトが左右どちらかに寄っている。
2. 歩行中（走行中）に左右どちらかの足を前に着地した時に走行ベルトだけ止まるような感じがする。



# 1. 走行ベルトが調整できる仕組み

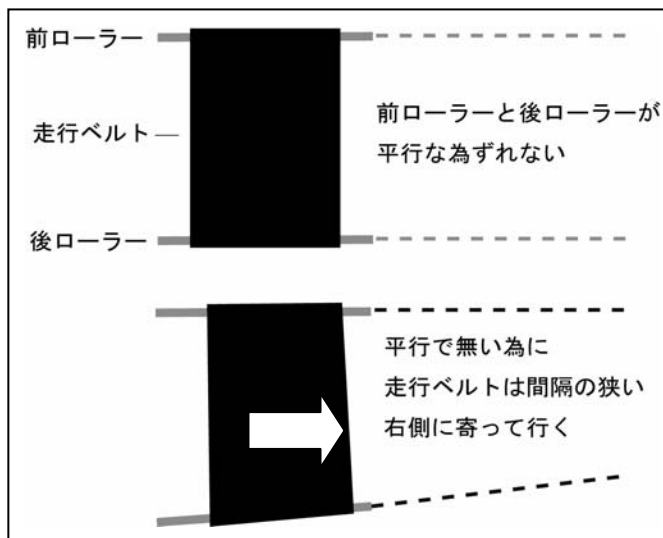
ルームランナーの後方の左右にあるカバーのネジを外すと、右図のように後ローラーの左右の軸に対して直角に調整ボルトが付いています。  
このボルトを回すことにより、後ローラーの軸にもネジ山があり、前後するような仕組みです。



前ローラーと後ローラーは上から見て平行でなければなりません。

どちらかの間隔がずれた場合は右図のようになります。

その際は寄った側の調整ボルトを回して調整が必要です。

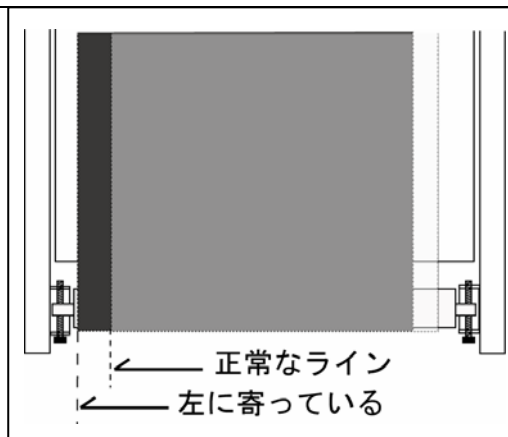


## 2. 走行ベルトの調整の仕組み

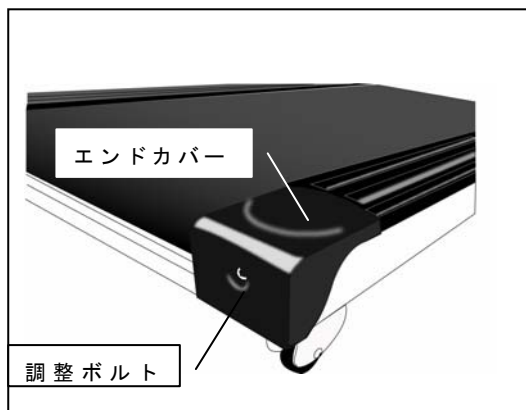
走行ベルトがずれる原因として考えられる原因

- 使用者の効き足の蹴る力
- 走行ベルトの伸び（消耗）
- 設置面の傾き

右図のように走行ベルトが左に寄っている場合の調整方法を説明します。

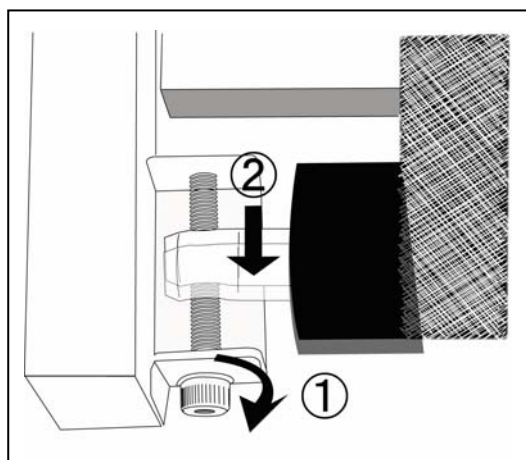


前ページで説明したように前後ローラーが平行で無い為、左に寄った場合は左側の後カバーの孔に、付属の六角レンチを使って、調整ボルトを回して調整します。右に寄った場合は右の調整ボルトを回して調整します。



右図はカバー内部の仕組みを分かりやすくするためのものです。

調整ボルト①を六角レンチで右に回すとローラーの軸②が後に下がります。左に回せば軸は前に移動します。



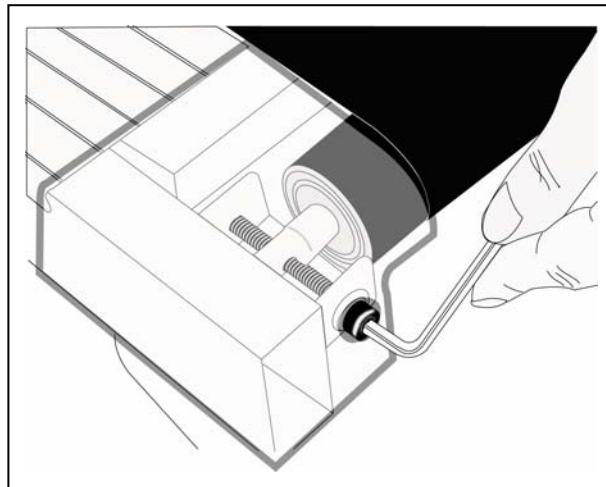
### 3. 走行ベルトの調整方法

1.

初めにルームランナーの電源を入れて走行ベルトを時速 2km/h ぐらいで動かしながら調整してください。

1 度に回す目安として六角レンチは 90 度ぐらいが目安です。

あくまでも 90 度と言うのは目安ですので実際に走行ベルトが移動するのを目で見ながら微調整してください。



2.

おおよそ走行ベルトが中心に寄ったら、時速 6km/h ぐらいに速度を上げて、人が乗らない状態で微調整を続けます。

微調整の際に逆側に寄りすぎた場合は調整ボルトを少し左回しにしたりして調整します。

3.

最後に実際に走行面に乗って、時速 4～6km/h ぐらいで走行ベルトを回し、通常よりも少し強めに踏ん張るように踏み込みながら歩行してください。

走行ベルトだけが滑るような感じでしたら左右の調整ボルトを同じ回転だけ右回ししてください。ちょうど滑らなくなったところが適正の走行ベルトの張りです。



その後、通常通りの走行をしてベルトのズレを確認してください。  
異常なければ走行ベルトの調整は完了です。

## 4.メンテナンス

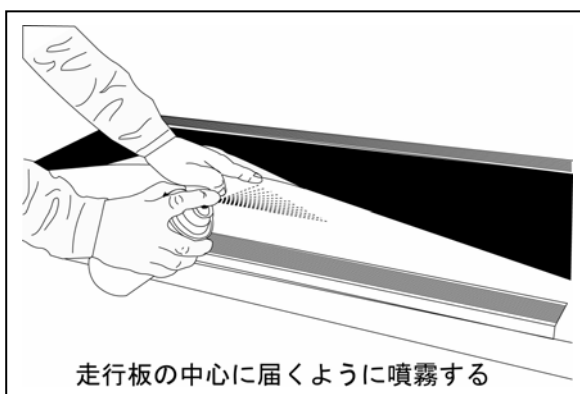
### シリコンスプレーの噴霧の方法

**シリコンスプレーは必ず必要です！**

走行ベルトは常に人の体重を乗せて走行板の上を滑っています。シリコンスプレーを噴霧することで走行ベルトの潤滑をしやすくしており、モーターやモーターを回すコンピューター基盤等に負担が掛からないように助ける役目もしています。家庭用ルームランナーは3～5日ぐらい、業務用ルームランナーの場合は1～3日毎で噴霧してください。

### 日ごろのお手入れ

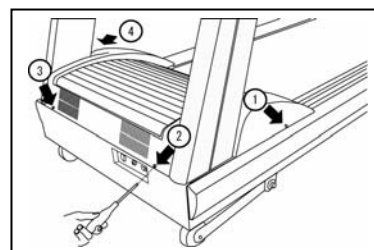
1. 走行ベルトと走行板の間に手を入れて、手の甲でベルトを持ち上げるようにします。
2. 走行板の幅の中心にシリコンスプレーが届くように噴霧します。  
走行板の全長の前から後まで移動させながら噴霧してください。
3. その後、低速スピードで人が乗った状態で走行ベルトを回して、足の裏で伸ばすように3回転ほど回します。



### 6ヶ月ごとのお手入れ

#### ●モーターカバー内の清掃

コンセントを必ず抜きます。右図のようにモーターカバーのネジを外してカバーを開けて、カバー内部のホコリなどを取り除いてください。  
(折畳んだ状態でネジを外すタイプもあります)



#### ●走行板の拭き取り清掃

走行ベルトを緩めて、走行板を中性洗剤を含ませた雑巾などできれいにシリコン、ホコリ等を拭き取ってください。拭き取り後、走行板にシリコンを噴霧してから走行ベルトを調整します。(P5、P6参照)

## トラブルシューティング

症状	確認箇所	原因・対処方法
<p>電源が入らない</p> <p>1.モニター画面は点かない</p> <p>2.モニター画面は点く</p>	<p>1.取扱説明書を読んで<b>電源、ブレーカーの確認</b>をする。  <b>建物の電源の確認</b>：コンセントに電気が流れているか確認            取扱説明書を読んで安全キーの取付け位置の確認をする。            取扱説明書の組立方法を見ながら接続箇所を確認する。            取扱説明書の操作手順の確認</p> <p>2.下記の走行ベルトが動かない項目へ</p>	<p>1) 本体電源スイッチ近くに有るブレーカーのピンを指で押し込む。取説の組立手順を読みながら、配線の接続部分を一旦外して、もう一度取り付けてみる。</p> <p>2) 電源コードの破損や断線の場合は販売店に連絡。</p>
<p>1.走行ベルトが動かない。</p> <p>2.ベルトが速くなったり遅くなったりする。</p> <p>3.運動中にベルトが徐々に遅くなる。</p>	<p>1 )            A.<b>取扱説明書を読んで操作手順の確認</b>            B.<b>モニターのボタン等の破損の確認</b>：破損の場合は購入店へ連絡</p> <p>2 )            A.<b>コンセントの容量不足</b>。            B.<b>走行ベルトの消耗</b>（シリコン不足）</p> <p>3. 走行ベルトへのシリコン不足から基盤等へ過電流が流れモーター基盤等の故障。</p>	<p>1)            B.ボタン等の破損の場合は販売店へ連絡。</p> <p>2) .            A.現在使用している建物側のコンセントのブレーカーとは違う別の回路のコンセントに繋いで症状を見てみる。            B.走行ベルトの交換            （寿命の目安 1~3 年、使用頻度が少なくてもベルトが硬化してきます。）</p> <p>3)            A.電源の容量不足            B.過電流で基盤等がショートした場合は部品交換の為、販売店へ連絡</p>
<p>異音がする</p>	<p>1) <b>異音がする箇所を特定する</b>。            例) モーター、前後ローラー、走行ベルトなど。            A.前の方から異音            B.後ろの方から異音</p>	<p>A.モーター内部の損傷、前ローラーのベアリングの消耗による片減り、タイミングベルトの消耗、走行ベルトのずれ            B.後ローラーのベアリングの消耗による片減り</p> <p>A.Bとも販売店に連絡</p>
<p>手すり等に触れると電気が走る</p>	<p>A.ナイロン系、ポリエステル系のトレーニング服を着ての運動            B.走行ベルトの消耗            C.アースが接続されていない</p>	<p>A.静電気が起きやすい服装で運動しない。            B.走行ベルトの交換            C.アースは必ず接続してください。</p> <p>B. 'C' の場合販売店に連絡</p>
<p>走行ベルトが止まる</p>	<p>1) モーターと走行ベルトが一緒に止まる            A.モーター基盤、モニター基盤、モーター等の故障。</p> <p>2) .走行ベルトのみ止まる            A.タイミングベルトの弛み。            B.走行ベルトの弛み</p> <p>3) 初めは動くが 5 秒程度で止まる</p>	<p>1)            A.シリコン不足からの過電流等による故障。販売店へ連絡</p> <p>2)            A.タイミングベルト交換。販売店へ連絡            B.走行ベルトの調整をする</p> <p>3) スピードセンサーの故障</p>

## トラブルシューティング

症状	確認箇所	原因・対策方法
走行ベルトがずれる	P5 参照	走行ベルトの調整、設置面の傾き
トレーニングスタート時、終了時にベルトが鳴る。	ベルトと足、もしくはベルトと歩行デッキの間で発生する「ギョッ」と言う音がする。P3、P5 参照	故障では有りません。 ベルトの滑りを良くする事や、ベルトの寿命を延ばす為に走行板と走行ベルトの間にシリコンを噴霧する。
スピード調節が出来ない	表面のシール、ボタン等の破損はないか確認	新しいフィルムスイッチに交換する。 販売店に連絡
エラー表示する。	エラー表示の番号	取扱説明書のエラーの確認。 販売店に連絡。
傾斜角度の操作出来ない。	コントロールパネル操作角度スイッチボタンの消耗度合、(くぼみ、破損)	販売店に連絡。
本体下に黒い粉が落ちる。	トレーニングによる走行ベルト表面の消耗やトレーニングシューズ靴底の消耗。	マシンの付近を周期的に掃除機をかける。
スタートするとラジオなどに雑音が入る。	モーターなどから発生する電氣的なノイズの影響を受ける。	電源プラグを本機と異なるコンセントに接続する。 ラジオ等の機器を本機から遠ざける。
脈拍が表示されない。	1).グリップセンサーの場合。 A.左右のセンサー部を手で掴んでいませんか。 B.手のひらが乾燥していませんか。 2).ハートレートセンサーの場合。 A.衣服の上からセンサーをしていませんか。 B.お肌が乾燥していませんか。	1) グリップセンサーの場合。 A.左右のセンサー部を手で掴む。 B.手のひらを少量霧吹き等で湿らせる。 2). ハートレートセンサーの場合。 A.直接肌にセンサーベルトを当てるようにする。 B.センサーベルト内側を少量霧吹き等で湿らせてセンサーベルトを肌に付ける。

(株)中旺ヘルス

〒452-0011

愛知県清須市西枇杷島町城並 3-2-2

Tel 052-501-2577 FAX052-501-2588

URL <http://www.jp-chuoh.com/>

メール [hj@jp-chuoh.com](mailto:hj@jp-chuoh.com)

平成 21 年 3 月